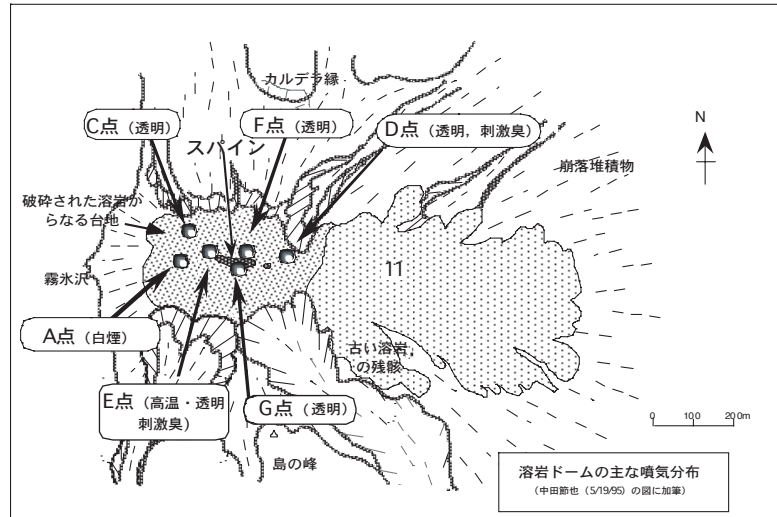
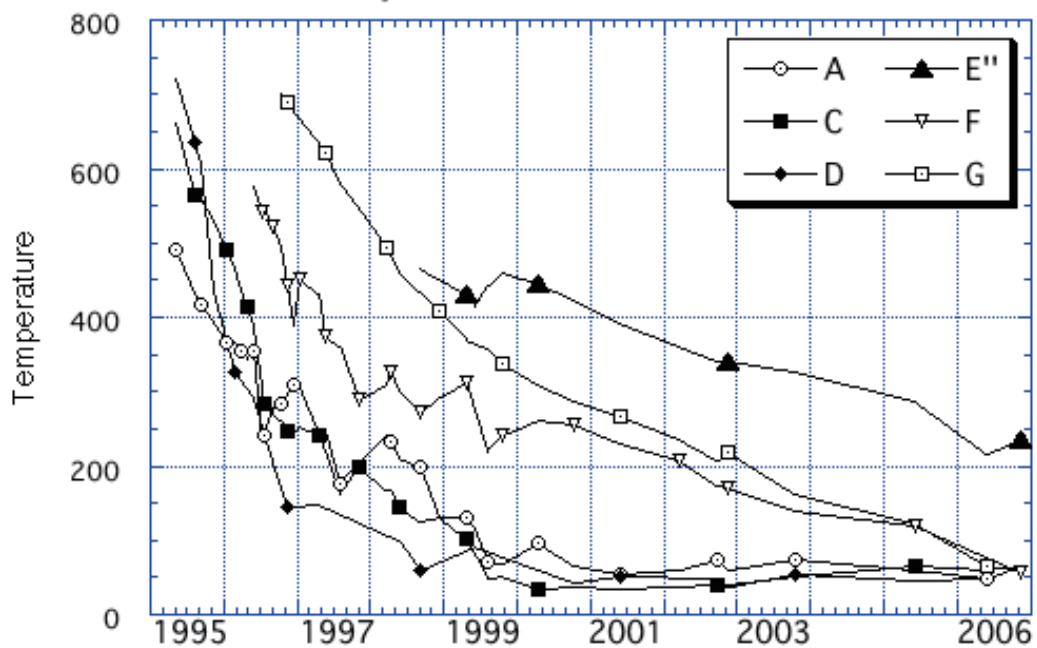


平成新山ドームの噴気ガス温度変化

九州大学地震火山観測研究センター*



Temperature of Fumarolic Gas



- 噴気ガスの温度は順調に低下している。青白いガス（主に二酸化硫黄）や刺激臭のガスの量はしだいに減少している。
- 2006年11月13日測定での最高温度はE地点の摂氏235度であった。
- E点は東に傾きながら隆起した尖頂（Spine）の西側の根元にある。マグマの湧き出し口（旧地獄跡火口）の直上にあると推測される。
- 11月6日から火災が発生した島の峰付近は天候不良で視認できなかったが、風下側で特に異臭は感じられず、また平成新山の噴気にも変化がなかったことから、火山活動とは関係がない現象であったと考えられる。